

令和 3 年度 特別の教育課程の実施状況等について

児童生徒の意識調査・自己評価・学校関係者評価等による検証結果

1 令和3年度に特筆すべきこと

コロナ禍のために断念せざるを得なかった「相手意識に立つものづくり科」に関する点について

- (1) コロナ禍のために、例年行ってきた諏訪工業メッセでの展示ができなかったため、代替の機会として諏訪市役所でのロビー展を行った。
- (2) 全体でのチャレンジショップができなかったため、各学校で参観日等を活用して販売体験活動を行った。
- (3) 昨年度断念した、地域密着型ものづくり講座は令和3年度には再開することができた、協力企業の方々に感謝したい。
- (4) 小学校6年生に実施してきた腕時計作り体験は実施できなかった。
- (5) 年度末の相手意識に立つものづくり科の実践発表会は、教育委員のみに声をかけ発表は各校からリモートで発表を行った。

2 児童生徒の意識調査より

「相手意識に立つものづくり教育」を学ぶ市内11小中学校の児童生徒の意識調査（下図）を継続してきた。令和3年度からは小学校2校が統合して1校になったため10校について意識調査を行った。今回の調査の結果から、当初のねらいが達成できた成果が得られてきているものと考えてるので報告をする。（教育特区として始めた平成20年度から実施）

《年度末に実施している意識調査の質問事項》（問1～問7は一つを選択、問8は自由記述）

問1 ものづくり科の学習での「ものづくり」や「地域企業での体験」などは、楽しい（好き、おもしろい、うれしいなど）と思いますか？（次の一つに○を）

1. とても思う 2. すこし思う 3. あまり思わない 4. まったく思わない

問2 ものづくり科の学習に積極的に取り組むことができましたか？

問3 ものづくり科で学習したような製作や体験を次の学年でもしたいですか？

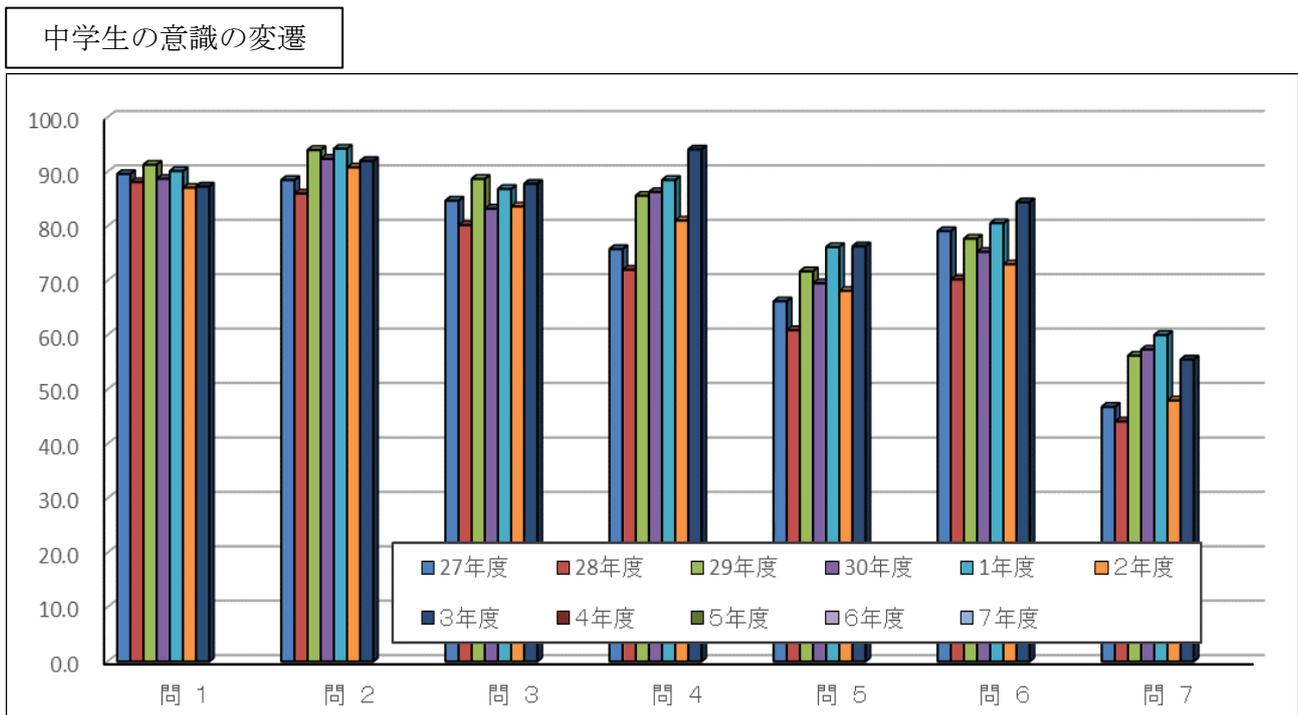
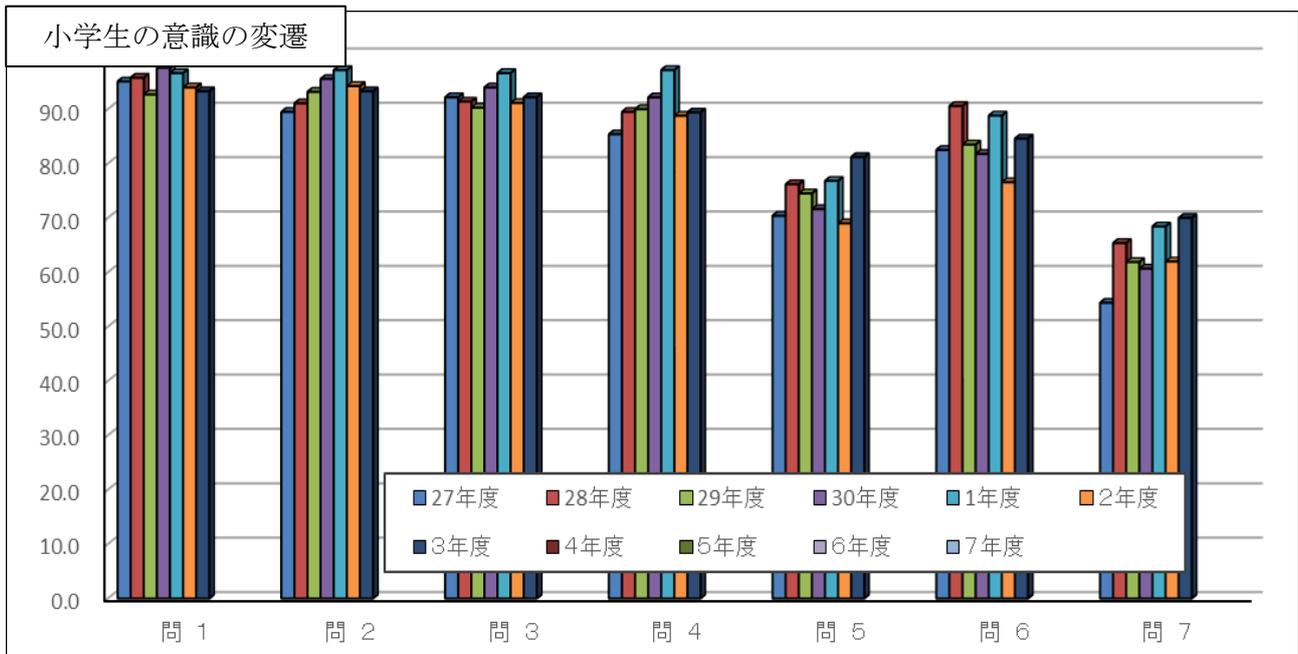
問4 ものづくり科の製作や体験を通して、友だちや家族、まわりの人など「相手の気持ちや願い・希望」などについて考えることの大切さを感じるようになりましたか？

問5 ものづくり科の製作や体験を通して、「学校の勉強と働くこと」や「自分の将来の夢などとのつながりや関係」を考える（気にする）ようになりましたか？

問6 ものづくり科の製作や体験を通して、将来、社会へ出たら「必要になること・考え方」や「大切なこと」などを考える（気にする）ようになりましたか？

問7 ものづくり科の製作や体験を通して、ものづくりのことや、将来の夢や目標などについて、家族や友だちと話したり考えたりするようになりましたか？

問8. ものづくり科の学習や体験を通して「考えたことや感じたこと」を自由に書いてください。



3 児童生徒の自由記述より (上記調査 質問項目問8の記述より)

【小学生の記述から】

- 6年になっても、ものつくりをやりたいと思った。誰かに作ることは大切だと思いました。ものづくりやってみると、難しいけど楽しいです。
- 相手にプレゼントするものは、一つ一つ丁寧に、気持ちを込めて作るのが大切だと思いました。

- 作るものに合わせて工夫をしたり、思いを込めたりすることを大切にしながら、学習ができてよかった。来年も、このことを意識しながら、学習できるといいなと思った。
- ものづくりは僕が1番大好きな教科です。ものづくりをすることで自分の考え方をひろげられました。
- 相手の気持ちを思って何かを作ることは大切なので、これからにも生かせるようにしたいです。
- 木の上に色をのせるとき、水分少なめにするなど、工夫しながら作る大切だと考えた。ものづくりは、自分で考えて作るのでいろんな柄があつていいと感じた。ものづくりは、自由な発想でできるからいいと思います！
- 自分で考えてつくるということはすごく難しく、でもつくれたときはすごく嬉しかったのでこれからも大切にしていきたいです。
- 改めて誰かのために、頑張つて何かを作るのは楽しいと思いました。
- つい最近やった伝言板作りで、いろいろ大変だったけど上手く出来て友達にも、じょうずだねと言ってもらったので、嬉しかったです。
- 自分の将来に大切なことだと思うのでこれからも、ものづくりを大切にしたいです。
- 相手を思う気持ちや周り協力してやるのが大切だと感じた。
- ものづくりはいろいろなことができるので楽しいと思いました。もっといっぱいやりたい。一年生の時よりも人の気持ちを考えられるようになった
- 友ペアの希望を聞いてデザインを考えるのは楽しかったし、作っているときも相手のことを考えて作れた。将来的にもものづくりは、必須になるとおもうからいいと思った
- 諏訪市でしかできない体験学習が出来て良かったです。見栄えが良い方をもらったら嬉しいので自分が制作する時にも意識しました自分は、ものづくりをつくるうちに得意になれたと思う。
- みんなで協力してやるものや一人で考えてやるものがあつてどう作るか、どう喜ぶ物を作るかが大変でした。でも、うまく物を作れてうれしかったし楽しかったです。
- ものづくり科は、みんなが楽しめる一番の教科だと思います。ものづくりの会話を家族でするようにになりました。
- マスクバンド作りでこの布は、あの人に似合いそうだなあとかを考えられたので良かったです。後は小松精機で作ったマグネットはいろいろな場面に使えるので作れて良かったです。ファイルももらいました。
- 物を作るのがとても楽しかったし、面白い物など、たくさん作れて良かったです。いつかこんなしごとやってみたいです。
- 自分で色々な物をつくるのは、とても楽しかった。6年生でのもの作りが早くやりたい。
- ものづくり科の学習を通して、ひとつの物事に集中する力が身に付きました。時間を見通して作品を時間に間に合うように意識も出来ました。地域の方々に協力してもらって将来の夢や目標を決めることが出来ました。諏訪をたいせつにしたいとおもいました。
- 相手に送り物を作ると相手からありがとうと言われて嬉しかった。私は楽しかった。将来はものづくりの仕事しようと考えている。
- 作ったものを人にプレゼントする時に、いろんな気持ちをこめて、プレゼントするから嬉しくなります。ものづくりの学習をしているといろんなことに、ついてわくわくします。作る事が楽しく好きになりました。
- ものづくり科は、将来に、役に立つと思いました。これからも、ものづくり科の、制作を、積極的にやりたいと思います。
- ものづくりに関わるところで働いてくださる方がいるから、私たちの生活が豊かになっているんだなと思いました。
- 学校で作るようなものでさえもこんなに難しいのに、会社などで働いている人はもっと難しい、複雑なものを作ったりしていてすごいなと思いました。
- ものづくりは、自分の好きなように工作などできるので、ものづくりは、楽しいです。
- 物作りが、得意だから楽しいです。もっともっと、何かを作りたいです。

【中学生の記述から】

- 使う人の気持ちになって使いやすさなどを考えなければいけないと思った。
- 相手の気持ちを考えてする事が増えたと思う
- 人のために何かを作るときに、相手の気持ちを考えたりしながら制作することができたので良かったです。
- 自分のためだけではなく、周りの人のためにどんなものが作れるかや、どうしたら使いやすくなるかを考えられるようになった。
- 物を作って売っている人がすごいと思った
- 何かを作るときには、使う人のことを考えて作ることが大切なんだと思った。
- 自分のことだけでなく相手の使いやすさを考えながら作ることが出来た
- 使うときのことを考える（先を見通す）ようにしたことでよくわからないけど普段の考え方が変わった気がする。
- あまり普段はこのようなことをしないのでとてもいい経験だと思った
- 何かを自分でつくるのはすごく楽しいことだと思いました。また、自分で作れそうなものは作ってみたいと思いました。
- 自分の役に立つような学習や体験があって将来役に立つことがあったらいいと思う。
- もらう人のことも考えて作ることが大事だと感じた
- 使う人の事を考えて作る事が出来た。
- ものづくりのハンガー作りは楽しかったし、誰かのために頑張るって素敵なことだなと感じた。自分の将来の夢について真剣に考えるようになった。
- 身近にある道具の仕組みや、自分の生活を支えているエネルギーなど学ぶことができた。
- じいちゃんが死ぬ前に木で作った書類入れをあげられてよかった。正直もうちょっと早くあげたかったです。
- 同じ班の人や他の人と協力して作業できたので将来にもいかしていきたい。
- 作品が出来上がっていくにつれて、うれしい気持ちになったり、達成感を得ることが出来ます。
- 1年の頃とは違い技術面での活動が中心となっていたので、去年は感じなかった将来性を今年は感じた。
- 世の中には沢山の技術が使われている事を感じた
- この教科を通して、将来について考えることができ良かった。
- 基盤にはんだ付けをしたりする作業から、いつも自分が使っている工業製品はこんなにたくさんの部品が使われていたり、たくさんの人の手間がかかって作られていたことを知り、すごいと感じた。電力の勉強では、毎日必ず使っている電気は人の手によってつくられており、簡単に作れるわけではなく、天候などに左右されながらも予想して発電していることに、とても驚いた。それと同時に、地球温暖化に影響を与えてしまう方法もあると知ったので、少しでも電気を節約して使っていこうと感じた。
- 少しのミスが大きなミスにつながると実感したので、面倒でも一つ一つ確認していくことが大切だと感じました。
- 物を作ることはすきだけど、人のために考えて作ることは無かったので、授業を通してちゃんと考えることができるようになったので良かったと思っている。
- 誰か＝使う人のことを考えながら作るのは楽しかった。制限されることはあるけどその中でみんなが使えるようなものを作れて楽しかった。
- 人のために、何かをつくることがおもしろいとおもいました。
- 班で協力することで、一人で作る時よりもいいものが作れる。班でやれば、お互いの得意不得意を補い合うことができると分かった。

○自分が想像している物を現実的に表現するのは、難しいなと思った

◇意識調査結果より

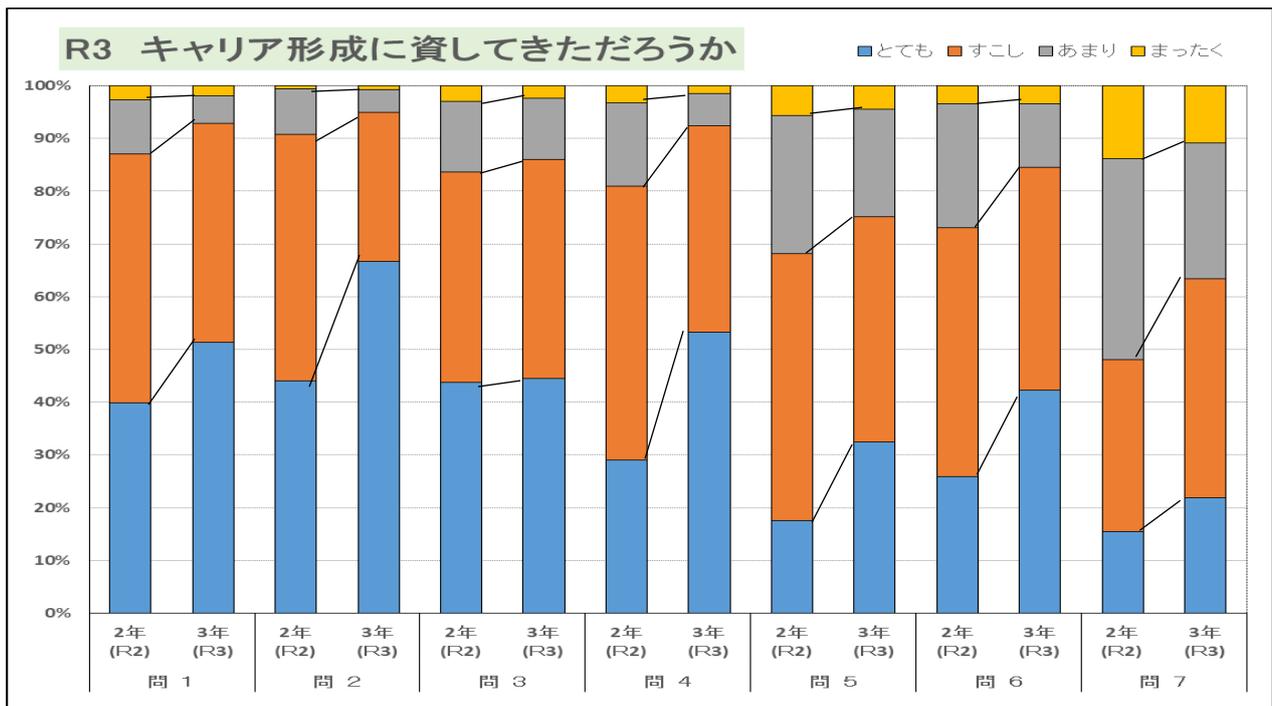
- ①問1から問3は、ものづくり教育の製作活動や諸体験を通して、ものづくり教育への興味・関心・意欲を把握しようとしたものである。調査対象の小学校5年生および中学校2年生は、毎年変わっていくものの、令和3年度も含め毎年各問に対して肯定的にとらえている児童生徒の割合は、小学校でも中学校でも80%から90%を示している。この結果から子どもたちの興味関心を高めてきているものと考えている。こうした結果は、ものづくり活動自体が持つ魅力とともに、意図的計画的に「誰かのためのものづくり」「相手の要望や思いを形にする」という視点で「ものづくり」を体験したり製作したりしてきていることが背景にあるものと考えられる。
- ②問4は、この教科を通して育成すべき教育的価値として捉えた「ひとづくり」の一つとして調査したものである。こうした資質は、ものづくりだけで形成されるものではなく、すべての教育活動や日常生活の中で総合的に形成されるものではあるが、こうした視点を意図的に設定し、児童生徒が意識する場を設けてきたことにより、継続的に小学生で80%前後を、中学生で70%前後を示している
- ③問5から問7は、ものづくりのことや、将来の夢や目標などに関する意識等児童生徒のキャリア発達を促すためのキャリア教育の視点からの設定である。これらの問については年度を経るごとに高い割合を示す傾向にある。特にコロナ禍や急速に進む社会のデジタル化等大きな変化を実感せざるを得ない時代背景にあって、自分の生き方や将来の仕事のあり方について真剣に考える児童生徒が増えてきたものと思われる。「相手意識に立つものづくり科」の学習がキャリア発達を促す機会となっていることに注目したい。
- ④問8の自由記述欄には、小学生も中学生もそれぞれの発達段階において新しい視点で社会や自己の見方や考え方を考え直そうとする姿勢が育ちつつある。キットをあてがってすでに作り方の決まったものを正しくつくる訓練的な学習ではなく、念頭にある相手が喜ぶ姿を意識して創造的なものづくりの学習には充実感を感じる児童生徒が多くいることがわかった。

4 ものづくり科の学習は、児童生徒のキャリア形成に資して来ただろうか。

- (1) 年度末に卒業した中学生の2年時と3年時でのアンケート結果（同じ質問項目から）
 (2) 上記調査と併せ、中学校3年生に9年間学習してきた「相手意識に立つものづくり科」の学習を振り返る機会をもった。

(%)

中学校	問 1		問 2		問 3		問 4		問 5		問 6		問 7	
	2年 (R2)	3年 (R3)												
とても	39.9	51.3	44.0	66.8	43.7	44.5	29.0	53.2	17.5	32.5	25.9	42.3	15.5	21.9
すこし	47.1	41.5	46.8	28.3	39.9	41.5	52.0	39.2	50.6	42.6	47.1	42.3	32.5	41.5
あまり	10.3	5.3	8.6	4.2	13.5	11.7	15.8	6.0	26.1	20.4	23.6	12.1	38.2	25.7
まったく	2.6	1.9	0.6	0.8	2.9	2.3	3.2	1.5	5.7	4.5	3.4	3.4	13.8	10.9



◇調査結果より

- ① (1) の比較調査より、それぞれの質問項目について“肯定的にとらえている生徒の割合”が同程度もしくは増加していることから、自己の進路選択や他領域での学びとも相まってキャリア形成がなされてきたものと考えられる。
- ② 「相手に思いを寄せる」ことの深まりは、小学校時代から「誰かのためのものづくり」という体験を積み上げてきたこと、贈った相手に喜ばれ認められた体験の積み重ね、立場の異なる視点に立つ体験をすることなどを通して、自己肯定感や自尊感情が培われてきたものとする。
- ③ (2) の生徒の記述からも、相手意識に立つものづくり科が生徒のキャリア形成に資してきたことが読み取れる。

活動の一つの柱である「校内チャレンジショップ」のための商品づくりや実際にお金を対価として販売活動を行うことを通して、今までは、商品価値や社会の仕組みを消費者としての目線だけから見ていた自分に気付き、製造者や販売者としての目線に立つ体験から、より広い視野で周囲を見ようとする生徒の成長を読み取ることが出来たと考える。今後もこうした学びの場を一層大事にしていきたいものだと考える。

「9年間のものづくり科の学習を振り返って」

(R4年.2月調査 一部抜粋)

- 9年間のものづくりの学習から何か制作するとき、それを使ったりもらったりする人にどのように使いたいのかやどうすることで使いやすくなるのかを考えて制作する大切さを学ぶことができた。相手のことを考えて制作することが一番大切だと思った。
- 自分で作るものの意味や、相手、買ってくれる人のため、使いやすさなど、相手がいる場合はどうやればいいのか、などを考えながら作ることができたので良かったです。
- 様々な工程で意識することや相手の要望に応えるにはどうすればよいのかを考えることができた。諏訪のものづくりの魅力を伝えていきたい。
- 言われた通りに作るだけでなく、使う側のことを考えながら作ることでより良い作品に仕上げることが出来たから、これからも自分のことだけでなく相手のことも考えて仕事をしたり、協力したりしていきたいと思います。

○物を作るときとかは相手の気持ちを考えて物を作ったりどのようにしたら使いやすいか使ってもらえるかを考えたりしてものづくりに取り組むことができたと思います。相手の気持ちを考えるということは私生活でも大切だと思うので今後の生活にも生かしていきたいです。

○普段自分たちが使っている機械はどれほどの苦労があったのか、そしてその機会にはどんな考えがあるのかを相手の立場になって考えることができるようになりました。

○社会に対して、何か利益のあるもの、誰かのためになるものを生み出す楽しさと、責任をこの『ものづくり』の時間から垣間見る事が出来た。

○人に売るために商品を作ったのは初めてのことだったけど、相手の立場になってこうなってったらあんまりうれしくないだろうな一や、こうしてひと工夫すれば目を引くようなものになるかな一など考えてつくることができた。

5 保護者や担任およびかかわった地域の方々からの感想（一部引用）

保護者の感想から「ものづくり科の学習」＜小学校2年「藍染」＞

- ・娘は担任の先生と一緒にあって、学級園で藍を育て、育った藍を使って藍染のランチョンマットを作って持って帰ってきました。藍染ということは聞いたことがあるけれど、売っている染料を使うのではなく専門の農家さんが育てたものでもなく自分たちで育てるということで親としても興味がわきました。家でも藍の育つ様子が話題にしたり私にどんな模様がいの？と聞いたりしてものづくり科の学習のある日はいつも家庭で親子の会話がはずむ日となりました。（小学校2年保護者）

学級担任の感想から「校内チャレンジショップ」

- ・諏訪市に赴任をして子どもが売ることを目的にものづくりをすることに驚きました。他の市町村でこのような取り組みをしているところはないので最初はこんなことやってよいのかとも思いましたが、おままごとではなく売ってほんのお金を得るという体験は絶対に間違っはならないという真剣さも伴う学習活動になりました。つくるものの先に使う相手がいるということ意識できる機会になりました。お金が介在することで次はどんなものを作ろうかとか人が欲しがるといって何だろうと考えるようになりました。子どもたちといっしょに社会のお金の大切さも考え（小学校4年担任）

地域の方の感想から

近くの中学校3年生では、日頃から地域の方々に支えていただいていることへの感謝の気持ちを伝えるために、地域の高齢者施設や地域公民館、公共施設等で必要としている物品の製作をし、贈呈することを通して地域の一員としての意識を高める活動も広がりを見せるようになってきています。今年は賽銭箱を作りたいということでお手伝いをしました。中学生はもちろん学校の先生もわからないながら一所懸命作ろうとする姿や態度に私自身が教えられるような気持ちになりました。立派な作品ができて使い手に手渡しすることができて安心しました。（中学校ものづくりサポーター）